

② 野菜・花き

プロジェクト

「ながいも」で儲かる産地づくり

目標

- ・優良種苗の使用割合 過去5か年平均(H30～R4)：30% → R10：50%
- ・ながいも収量 過去5か年平均(H30～R4)：2.4t/10a → R10：3.2t/10a

挑戦する内容

- ・優良種苗供給体制の強化
- ・新品種「夢雪」の高品質多収栽培技術の確立
- ・気候変動に対応した栽培技術の確立
- ・地域の担い手の確保・育成
- ・機能性に着目した高付加価値化

関係者の声
＝対話

- ・単収が高い品種、掘り取りしやすい短めで多収の品種を育成してほしい（農業者）
- ・種苗増殖方法の転換に向け、催芽切いもや小切片増殖のマニュアルを整備してほしい（農協）
- ・機能性表示食品の届出に向けて、取組を進めてもらいたい（委員）

役割分担

- ・全農、農協：優良種苗増殖、研修会開催協力、販売PR、実証ほ等設置運営、現地指導
- ・生産者：現地実証への協力、検討会での提言
- ・産技センター：優良種苗供給、新品種の高品質多収栽培技術や気候変動に対応した栽培技術の確立、機能性成分の調査
- ・県立保健大学：機能性成分に関する効果検証
- ・県：優良種苗供給体制整備、研修会・会議開催、実証ほ設置・調査、現地指導

変革後の姿

- ・優良種苗の使用割合が増加し、単収が向上
- ・コンパクトで品質の良い新品種「夢雪」の普及により、収穫労力の軽減や販売単収が向上
- ・機能性成分を表示した販売PRの実施

令和7年度計画

挑戦する内容

- 1 優良種苗供給体制の強化
 - ・催芽切いも、小切片による種苗増殖方法改善実証ほ設置（3か所）
 - ・原原種成いも供給体制の実証（野菜研）
- 2 新品種「夢雪」の高品質多収栽培技術の確立
 - ・栽培技術確立試験（野菜研）
 - ・新品種試作展示ほ設置（9か所）
- 3 気候変動に対応した栽培技術の確立
 - ・大雨による生育障害抑制技術の確立（野菜研）
- 4 地域の担い手の確保・育成
 - ・ながいもプロフェッショナル養成所研修の開催（3回）
- 5 機能性に着目した高付加価値化
 - ・機能性成分の探索及び文献調査（農加研）
 - ・レジスタントスターチのヒト介入試験による効果検証（保健大）
 - ・機能性成分を活用したPR方法の検討（1回）



切いも



達人と若手による新品種の検討

対話

- ・部会、ながいも戦略推進協議会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（7月、1月）
- ・生産者や生産者団体、市場等からの意見を聞き取り、取組内容に反映（8月）